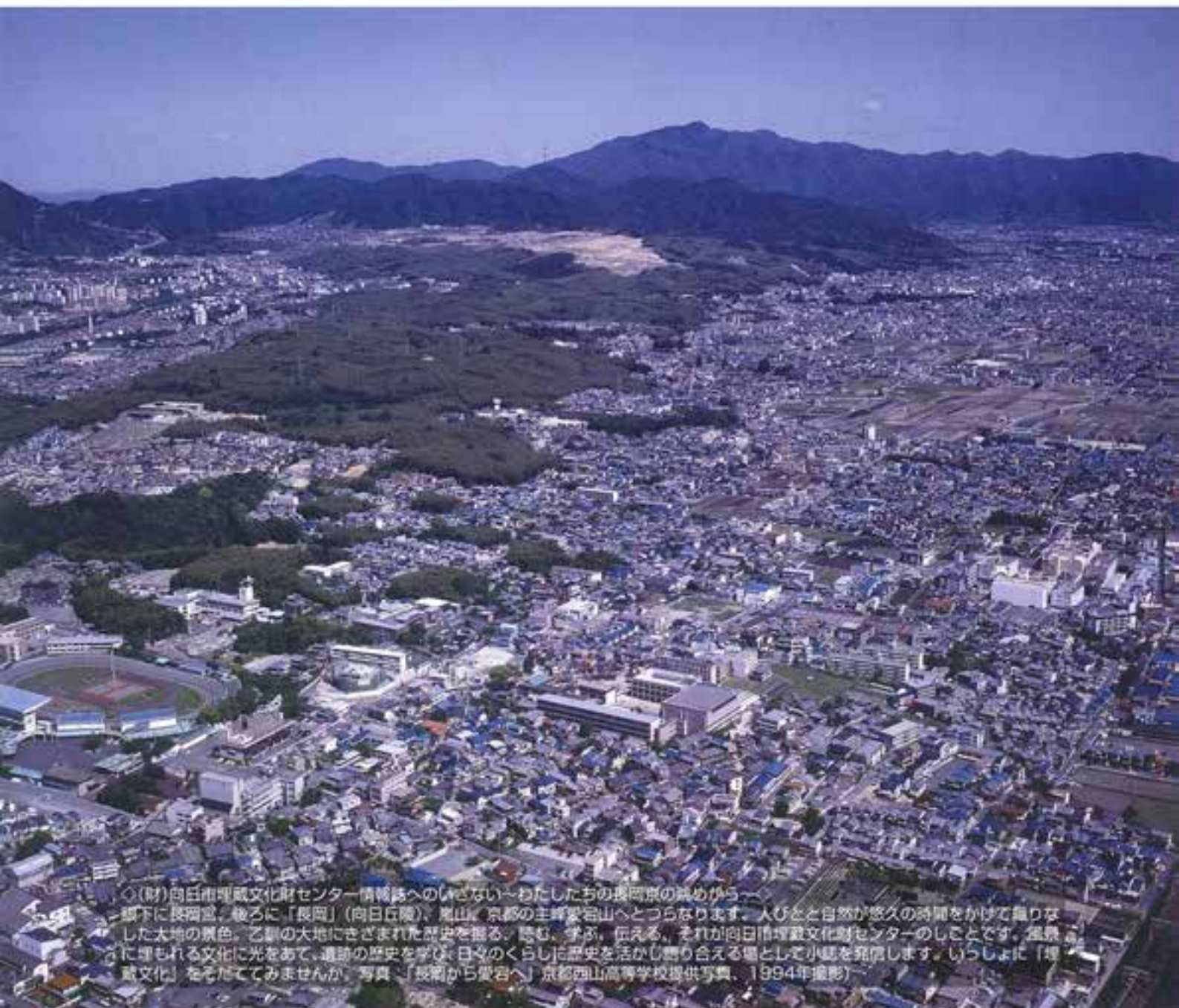


まいぶんfan

向日市の埋蔵文化財の最新情報を提供します。

Archaeological Information of Muko-city, Kyoto-pref. Japan



○(財)向日市埋蔵文化財センター情報誌へのいざない～わたしたちの長岡京の謎めから～
 鎮下に長岡宮。後ろに「長岡」(向日丘陵)、嵐山。京都の主峰叡山へとつらなります。人びとと自然が悠久の時をかけて織りな
 した大地の景色。乙訓の大地にさざまれた歴史を掘る。読む、学ぶ、伝える。それが向日市埋蔵文化財センターのしごとです。風景
 に埋もれる文化に光をあて、遺跡の歴史を学び、日々のくらしに歴史を活かし語り合える場として小誌を発信します。いっしょに「埋
 蔵文化」をそだててみませんか。写真:「長岡から叡山へ」京都西山高等学校提供写真、1994年撮影

月・日	秋・冬イベント
9/1(木)～11/30(木)	関西考古学の日:近畿の埋蔵文化財関連施設、史跡をめぐるスタンプラリー。
10/15(土)	まいぶん教室2011「土器づくり実験で古代史体験～粘土の性質・しくみを学ぼう～」
10/23(日)	第4回市民考古学講座「平城京から草仁京へ」～奈良市・木津川市方面の歴史ウォーク～
11/19(土)～11/20(日)	2011向日市まつりへの参加 「まいぶんファン・クラブ2011～ふれてみよう・つくろうおおむかしの土器～」出展
11/20(日)	第5回市民考古学講座「難波宮から長岡京へ」～大阪市・長岡京市・向日市方面の歴史ウォーク～
11/13(日)	市民考古学講座講演会 井上清郎先生「山城遷都と桓武天皇」
12/4(日)	第6回市民考古学講座「長岡京東院から平安宮へ」～向日市・京都市方面の歴史ウォーク～

市民考古学講座講演会

井上満郎先生「山城遷都と桓武天皇－苦悩から栄光への道－」

先生からひとこと

「784年11月、都が長岡京にうつってきました。山城・京都の都のはじまりです。10年間で廃都になりましたが、次の平安京は千年の都として日本の歴史と文化の中心になりました。しかし山城への遷都の背後には、多くの人の血の流れた激動の時代があったのでして、その実相を考えながら、山城遷都と桓武天皇の真実を読み解いてみたいと思います。」



講師 井上満郎 (いのうえ みつお)
1969年京都大学大学院修了。奈良大学助教授、京都産業大学教授を経て、現在、京都市歴史資料館館長、京都産業大学名誉教授。
著書：『平安京』（吉川弘文館）
『桓武天皇』（ミネルヴァ書房）
他、多数。

日時：平成23年11月13日（日）

午後2時～4時

場所：向日市民会館会議室1
（向日市寺戸町中ノ段17-1）

主催：向日市教育委員会
財団法人向日市埋蔵文化財センター
申込み不要。定員120名。

最新調査トピックス

推定「西宮」の複廊跡～長岡宮跡第481次調査～

向日市向日町南山

長岡京（784～794年）の中心部は、長岡宮跡と呼ばれます。天皇の住まれた内裏、政務・儀式の場となる大極殿・朝堂院、役所の曹司がありました。当時の施設の名称は、『統日本紀』に記録として残されています。長岡宮の内裏については、遷都から5年後の延暦8年（789）2月27日に、天皇は「西宮」より初めて「東宮」に移られたと記されます。「東宮」はすでに発見されていましたが、「西宮」は所在地を確定するには至っていませんでした。

ところが、2010年秋から翌年の春にかけて、この遷都当初の内裏（「西宮」）と推定できる遺構が発見されました。場所は、大極殿の西300m、向日市立向陽小学校の北端にあたります。掘立柱が3列に並び、両側に石組み雨落ち溝を伴う複廊跡です。

南北にのびた複廊は、調査区の北寄り東に折れ（写真の人物）、ちょうど区画の北西隅が発見されたこととなります。複廊跡は、過去の調査でも発見されており、南北に100m以上あったこととなります。柱はすべて抜き取られていましたが、径45cmほどであったと推定できます。柱と柱の間隔は、建物の棟方向（桁行）で3.0m（10尺）、石組み溝を含めた幅は9m以上もある立派な区画施設です。

複廊は、壁の両側に通路のある構です。古代の都では、前期難波宮、平城宮、後期難波宮の内裏など、天皇の住まいを方形に囲む特別な施設として使われています。発見された複廊も内裏に関係する施設と思われます。

今回の調査で、複廊全体が方形だった可能性があること、出土した軒瓦の年代観から長岡京期の初め頃に造られたことが推定できるようになりました。大極殿の東にある内裏が「東宮」であれば、今回西側に発見された内裏は、「西宮」である可能性が考えられます。つまり、大極殿の左右に内裏を配置するという異例のかたちが復原できることとなります。

この複廊が「西宮」を区画した施設であったとすれば、内裏の大極殿からの独立という、奈良時代の平城宮にはみられ

ない新しい宮殿の形を長岡宮で取り入れたこととなります。その背景には、桓武天皇の内裏における直接政治の実現が関係しているのでしょうか。桓武天皇の目指した都づくりのねらいや古代の都における内裏の歴史を解明する重要な発見となりました。

（松崎俊郎・園下多美樹）



<写真解説>

複廊跡を西からみた写真です。柱位置に人物がたちます。画面上の山並みは桃山丘陵。



平成23年度
市民考古学講座

『遷都に学ぶ～歩いて学ぶ考古学～』

向日市にある遺跡を詳しく理解するために、市内や近畿地方の遺跡と博物館などを訪ねて学ぶ歴史ウォークです。どなたでも参加できます。ご応募下さい。

参加費：無料、保険料（150円）、交通費要

定員：35名（定員になり次第締切）

申込み：電話でお申し込みください。

財団法人向日市埋蔵文化財センター TEL：075-931-3841

主催：向日市教育委員会・財団法人向日市埋蔵文化財センター

第4回 見学会 <徒歩10kmコース>

「平城京から恭仁京へ～聖武天皇遷都の道を歩く～」

日時：平成23年10月23日（日）午前8：00～17：00（予定）
集合：近鉄京都駅中央改札口 午前8時
コース：近鉄京都駅→近鉄大和西大寺駅→平城宮→コナベ越え→松林苑・コナベ古墳→奈良山瓦窯→作り道→木津川をみながら昼食→JR木津駅→JR加茂駅→恭仁宮→JR加茂駅解散
昼食：持参ください。電車利用。小雨決行。



聖武天皇遷都の道（泉川から養老山を望む）

第5回 見学会 <徒歩約6kmコース>

「難波宮から長岡宮へ～都の朱雀大路を歩く～」

日時：平成23年11月20日（日）
午前8：50～16：00（予定）
集合：阪急東向日駅西口 午前8時50分
コース：四天王寺→堀工谷遺跡→難波宮→JR移動→長岡京朱雀大路→吉備寺遺跡→朱雀大路跡→長岡宮史跡朝堂院跡（解散）
昼食：持参ください。電車利用。小雨決行。



長岡宮に移築された後醍醐天皇大極殿（南から）

第6回 見学会 <徒歩約13kmコース>

「長岡京東院から平安宮へ」

日時：平成23年12月4日（日）
午前10：00～17：00（予定）
集合：阪急西向日駅東改札口 午前10時
コース：長岡宮内裏跡→長岡京東院跡→大敷遺跡→平安京羅城門→平安宮大極殿・豊楽殿→京都アスニー（解散）
昼食：持参ください。市バス利用。小雨決行。



聖武天皇平安京遷都への道（平安京羅城門）

「2011向日市まつり」も
来てね！

体験ブース：「まいぶんファンクラブ2011～ふれよう・つくろう おおむかしの土器～」(無料)

「長岡京出土資料展示」、「回して描こう、弥生の文様」、「ふれようねんど・つくろう古代のどき」

日時：平成23年11月19日（土）
20日（日）

場所：向日町競輪場

新企画

★まいぶん教室2011

「土器づくり実験で古代史体験

—粘土の性質・しくみを学ぼう—

土器は時代のものさし(編年)としての研究がすすんでいます。作り方は分からないことがたくさんあります。土器の材料となる粘土の性質、仕組みを学習し、手指と簡単な道具だけで、薄くて軽い古代の土師器(はじき)の食器を作ってみましょう。学校でまなぶ、考古学の総合学習です。

【日時】平成23年10月15日(土) 午前9：00～12：00

【場所】向日市立向陽小学校理科室

【募集】40名(定員になり次第締切)・保険料要

【申込み】電話でお申し込みください。

財団法人向日市埋蔵文化財センター TEL:075-931-3841





学ぶ楽しみ

～埋蔵文化財センター2011上半期普及事業から～

歩いて学ぼう2011年度市民考古学講座

今年のテーマは「遷都の道」。

6月19日、継体天皇の樟葉宮・筒城宮・弟国宮推定地を訪ね、関連遺跡や景観から遷都の歴史を学びました。秋季もひきつづき歩いて学ぶ考古学の世界にご招待します。



～小学生・高校生と フィールドワーク～

向陽小学校、第5向陽小学校、西山高校の生徒さんたちと、向日市文化資料館の展示や市内の文化遺産を学びました。物集女車塚古墳見学、遺物のスケッチ、古地図で江戸時代にタイムスリップ。楽しい教室になりました。

(左:京都橋大学,右:第5向陽小のみなさん)



最新研究トピックス

◇「風光明媚・「長岡」の景色の歴史～防災と考古学～」◇



古代の帝は景色のすばらしい高台べりに都を営みました。たとえば「長岡」です。川底だった地形が約30万年間の断層運動によってもちあげられて、岬のような丘になりました。愛宕山麓から南に延びる榎原断層の運動の結果です。難波宮も、長岡の断層運動に少し遅れて隆起をはじめた上町台地の末端を、立地場所を選びました。天・地・水が接する風光豊かな景勝地ですが、誕生の背景に実は沈み込むプレート運動がまねく地震活動、造盆地運動の歴史があるのです。東北地震津波・原発災害を契機に、発掘でとらえた地震活動の歴史について振り返ることにします。

〔長岡京の古地震履歴〕阪神淡路の震災前・後墳、長岡京域低地約40地点の遺跡に残された地震の跡（液状化痕跡）を調査する機会がありました。液状化の発生は縄文時代晩期以降、おおきく5つの時代（平均的に2700・2100・1400・900・400年前頃）にまとめることができました。約500年おきに古地震が低地の地層に記録されたこととなります。最初の痕跡はひときわ大きく、礫層が覆っている粘土層を帯状に突き破る地点があります。起震断層の動きを受け止めたかたちが液状化跡なので直接の対応関係は不明ですが、大規模な2700年前のものは、あるいは直近の榎原断層の地震動にかかわる痕跡かもしれません。なお、松尾西芳寺近くでの榎原断層の物理探査・年代測定結果（2002年）は、1500～4000年前以降の断層活動の存在を示しました。

〔活断層の動きのくせ（再来周期性）をさぐる〕今、さらに選った時代の地震痕跡を探しています。断層は中・長期的にみて一定間隔で活動することが知られ、今後の活動時期をうかがうことができます。断層通過位置に接する物集女の中海道遺跡西縁（2000年調査）では8300～8800年前以降、寺戸殿長遺跡（2007年）では15000～5400年前の間の、地層の異常な変形跡が確認されています。5000～8000年前と2700年前に断層が活動した可能性があることを念頭に、街の直下で起きうる地震に備え、遺跡調査と同時に大地の「鼓動」に耳をすまそうとおもいます。

(中塚良)

【写真紹介】

- ①「長岡」全景（表紙写真「長岡から愛宕へ」を参照）
- ②京都盆地を縁取る活断層と二都（京大防災研共同研究2011）
- ③・④内陸直下地震痕跡か、縄文時代晩期の大規模液状化～噴砂・噴泥～（石田道隆、1991・1994）
- ⑤・⑥活断層のかたち、動き（再来周期）を発掘してさぐる～榎原断層（大牧、1993）と花折断層（今出川、1996）～

編集・発行

財団法人向日市埋蔵文化財センター
住所 〒617-0004 京都府向日市鶴冠井町上古23
電話 075-931-3841 FAX: 075-931-4004
http://www.mukoumaibun.or.jp
平成23年（2011）年9月15日